

谷口智彦著「通貨ユーロは万年補欠—SDRの登場で存在感はさらに薄まった—」

ボイス 2009年8月号 PHP 研究所刊を読む

1. ユーロの影は薄いのだとして、日本はどうすればいいか。
2. 一兆ドルある外貨準備は、じつは自由にできない。政府が市中から借金し、調達したものだからだ。それならいっそ、いまお買い得のドルを、民間企業が買えばいい。米国債を買えというのではなくて、ロッキードを買って現在地上最強の戦闘機を手に入れるとか、米国につくった会社で、日米共同の旗を立て南アフリカにあるという石炭液化の最新技術をもつ会社へ買いに入るとか。
3. エクイティ(株式)の投資をしつつ、対米資金流入の一助とし、ひいてはドルの価値を下支えする方法はありそうなもの。ないのは日本企業の「元気」か。

[コメント]

通貨についての基本的認識を欠いて経済や国民生活を語ることはできない。ユーロは危機的な状況にあり、その中で日本経済はどうあるべきか。谷口氏の結論は明快だ。

- 2009年7月27日林明夫記 -